

いいのではないか。

- 「千代田生涯学習大学」を正式名称とし、愛称やキャッチコピーのような、セカンドネームを考える形でもいいと思う。
- 「ちよだ」がひらがなだと、柔らかく好印象を与えられる。
- 過去のコーディネーター養成講座の応募状況が非常に良いとのことなので、それだけ興味がある人や学びたい人が多いということだと思う。そういった方々のためには、「生涯学習」という名前をある程度出した方が、行きたいと思っただけなのではないか。
- 長い名前も覚えにくい。短めで、覚えやすいものが良い。
- できれば「千代田」は漢字のまま入れたい。「千代田カレッジ」や「千代田キャンパス」という字面にすれば、分かりやすく良いと思う。
- 漢字でもひらがなでも良いとは思いますが、「生涯学習大学」は堅い感じがするので、「カレッジ」の方が軽い印象を与えられるのではないか。
- 「まち・ひと・つなぐ」もフレーズとしては良いと思う。キャッチコピーを付けても良いという意見があったので、これをキャッチコピーにすることも視野に入れたい。
- 「千代田生涯学習大学」や「千代田大学」という堅めの名称にしても、「学び・地域」といった補足的な柔らかい言葉で繋げれば、バランスがとれると思う。
- 若い人は略称・短縮形の言葉をよく使用する。受講者が簡単に短縮して、「〇〇大、行く？」



と言えるようなイメージだと親しみやすい。

- 少し発想を変えて、千代田にちなんだ、あまり馴染みのない言葉を使うのも良いのではないか。意味や由来を聞いて初めて納得できるようなものにすれば、なるほど、となると思う。
- 学校教育法上では、学習塾の名称に「小学校」と付けることを認めていないが、大学についてはある程度寛容な部分がある。「区民大学」「市民大学」「生涯学習大学」といった名前は、学校教育法で言う大学とは違う、という位置付けになっている。
- 「ちよだキャンパス」は、どこかの学校の分校のように思われてしまうので避けたい。
- ヨーロッパでは、「アカデミア」という言葉をそれぞれイタリア語やドイツ語に訳して使用することが多い。日本語で「アカデミア」を訳すのは難しいが、なにか良い言葉があれば、候補に挙げていきたい。
- 千代田という名称は「千代田城」から来ているが、なにか千代田区の歴史や地名、文化人等にちなんだ名称を検討しても良いと思う。
- 藤沢市は市の鳥がカワセミだったため、市民大学の名称に「かわせみ学園」と付けたが、一見した字面だけでは、どういった学習の場なのか分かりづらいという側面もあった。ストレートに付けるのも悪くないが、十分な検討が必要だと思う。



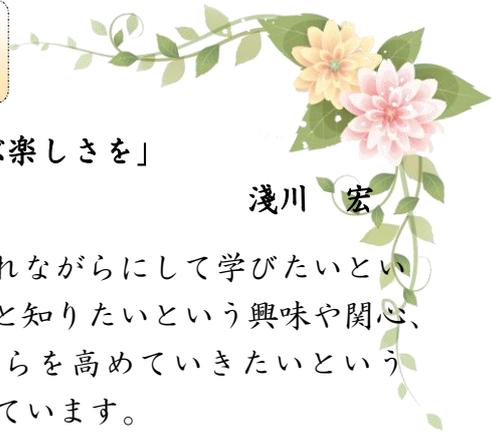
(仮称)生涯学習大学 基本理念・方針について

● 基本理念 第1案

2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催都市である東京の中心地「千代田区」は、江戸以来の歴史・文化を豊かに継承しつつ、常に新しく変化し続けています。

在住者と在勤者、新旧住民の垣根を越え、生涯学習によるまちづくりが求められています。そこには、学びによる在住者と在勤者のつながりを強化し、地域の学習ネットワークを拡充していくことが不可欠です。

(仮称)生涯学習大学により、区内の在住・在勤・在学者の「学び」を縦横に広げ、グローバルとローカル、社会と個人の交流の場（プラットフォーム、ハブ）となることを目指し、学びでコミュニティの活性化やまちづくりに関わる地域人材を育成します。



「ちよだ城下に学び集う」

勝部 純明

30年近く前、『東京都の歴史散歩』という教師の手による歴史探訪の書で、神田や日本橋界隈を担当したことが千代田区との関わりのお初めです。幕府開闢以降、政治・経済の中心として、また昌平黌や多数の塾や道場があり学者や文人が住まう文教地区として栄えたこの界隈をはじめ、江戸城周辺は訪ね歩くのに魅力的な街です。

さて、10年程前に始めた私の趣味はローカル線を各駅停車で旅して、途中下車した街を歩くことです。鉄道は城下を迂回して敷設されたので、駅からお城へ至る道が大抵目抜き通りです。しかし、多くがシャッター通と呼ばれて人通りも少なく、かつての面影はありません。

そんな賑わいの乏しくなった街でも、突然雰囲気が変わるエリアがあります。それは、お城を囲む武家屋敷の界隈です。道ですれ違う小中学生、時には高校生から元気よく「こんにちわ」と、見ず知らずの旅行者に向けて挨拶されます。その姿や顔は、駅前でスマホを手にしている時とは明らかに違います。郷土を誇りに思い、大切にしているのが伝わってきて、嬉しくなります。

世界に誇る東京の、城下町江戸の歴史と風土が醸し出す文化こそ、海外から訪れる人達への“おもてなし”です。それには千代田区に住み、働き、学ぶ者がこの文化の担い手となるのが大事です。武家屋敷跡には沢山の私学ができ、生徒や学生が学んでいます。生涯学習から広がる郷土愛の輪を期待したいと思います。

「自ら学ぶ楽しさを」

浅川 宏

人間、生まれながらにして学びたいという意欲、もっと知りたいという興味や関心、そして常に自らを高めていきたいという気持ちを抱えています。

その一方で生涯学習は、学校教育を終えてから、また子育ての卒業や現役を退いてからというイメージで捉えられがちです。現場から一歩離れたところにそのスタート地点があり、そこで初めて自分の意思で学びが実現できると考えることが多いのも事実です。その意味で、そのような立ち位置の払拭こそが、生涯学習の原点であると考えます。それだけに、学校教育のスタートである就学前教育に視点を当てることも、生涯にわたって学ぶ意欲や学びの充実につながると思います。

そこで学びは楽しいという視点に立つことが大切です。自ら取り組むことが楽しいという気持ちが様々な理解や充実をもたらし、意欲へと繋げます。現実には幼児期の楽しさあふれる主体的な遊びにこそ、生涯学習の原点である様々な学びの芽生えが存在します。学習の基盤となる遊びの原動力が楽しさであるように、生涯学習を支える原点も「自ら学ぶ楽しさ」にあるものと考え、実践に近づけたいと思います。



第10期第7回のエポックをお送りしました。今回は、大学の正式名称・基本理念の決定が楽しみな話し合いとなりました。また、ご多忙の中リレー随筆をお引き受けいただいた勝部委員、浅川委員に、心から御礼申し上げます。

次号エポックも、よろしく願いいたします。

【編集／発行】

千代田区 地域振興部 生涯学習・スポーツ課 〒102-8688 千代田区九段南1-2-1
TEL: 03-5211-3632 / FAX: 03-3264-1466 / Mail: shogaigakushuu@city.chiyoda.lg.jp